

【市民農園開設支援事業を契機に農園開設】～鹿児島県鹿児島市～

1 市民農園名

帯迫農園(鹿児島市吉野町帯迫地区)

2 地区の概要

鹿児島市吉野地域は市東部に位置し、市中心部から農園までは自動車ですら5分程度となっており、アクセスは良好である。

同地域の台地においては、白ネギなどの露地野菜のほか、ビニールハウス等の施設を利用したホウレンソウ、ミズナなどの軟弱野菜を中心とした都市型農業が行われている。

近年、住宅団地の造成などにより、農地の分散化、混住化が進行している。

3 市民農園開設の経緯

帯迫地区にお住まいの高山次郎・昌江ご夫妻は、平成17年頃のご両親の離農に伴い、実家の農地の管理を任せられ、一部は家庭菜園、それ以外の部分は草刈りなどの保安全管理を行ってきた。しかし、面積が広いことや本業の会社勤めもあり、管理作業が難しくなったため、28年に鹿児島市農政総務課に相談したところ、鹿児島市では遊休農地の解消と農地の有効活用、市民の余暇の充実を図ることなどを目的として「鹿児島市市民農園づくり隊事業」を29年度から予算措置する動きがあったため、本事業を活用した市民農園の開設を提案された。

高山夫妻が家庭菜園をしていたことや、市民農園の開設に前向きであったことから、29年にボランティア3名と市職員の協力のもと、草刈りや農園区画の整備を行い、29年5月に開設に至った。



整備前



整備後

4 施設概要

- 所在地：鹿児島市吉野町3267番1
- 施設総面積：2,075㎡
- 区画面積：1区画あたり 30㎡、50㎡
- 区画数：30㎡ 20区画
50㎡ 4区画
- 利用料金：30㎡ 5,000円／年間
50㎡ 7,000円／年間
- その他：駐車場、水道



農園内に設置されている水道

5 管理・運営等

農園の管理や利用者からの栽培相談などはご主人の次郎さんが対応し、農園利用の申込み受付などは、妻の昌江さんが行っている。

ご両親から農地管理を任された当時は栽培経験はなかったが、家庭菜園に取り組む中で、親や近隣の農家から教をを請いながら栽培技術を身につけ、今では苗さえあれば、大抵の作物の栽培指導や栽培相談にも対応出来るようになった。

利用者の募集は市報等で行っており、利用料金も低額に設定されているため、現在空き区画がない状況である。

利用者があまり農園に來られていない場合は、連絡をとり、継続利用の意思を確認した上で更新手続きを行っている。



取材にご協力いただいた高山次郎さん、昌江さんご夫妻

6 農園の特徴

- 利用者の自由度の高い農園を目指す一方で、野菜くずなどのゴミ処理は利用者自身で処理すること、農機具は利用者個人で責任を持って管理することなどを農園利用規程に記載、契約時に説明することにより、利用者の自己管理を徹底している。このため、近隣住民や利用者からのクレームはこれまで受けていない。
- 90歳の利用者の方がいるが、土作りの準備までご主人が行うなど、利用者に応じて親切な対応がされている。
- このような配慮もあり、他の農園を利用していた人が本農園を利用したいと相談もある。

7 イベント・交流活動等

- ご夫妻共に本業の傍らの農園管理であり、定例的な行事まで行える状況にないものの、利用者同士の交流は活発である。
- 30年9月には、市の協力を得て栽培講習会が開催された。市の指導員が土づくりや野菜づくりの基礎などの講義を行ったところ、利用者から大変好評であった。

8 施設設置効果

- 農園を利用し始めた高齢者から、足腰が丈夫になった、と声が聞かれるなど、健康維持に繋がっている。
- 自分で作った野菜はおいしい、作った野菜を家族に持っていくと喜ばれる、孫と一緒に収穫するのが楽しいなど、高齢者の生きがいに繋がっている。
- 利用者の中に、いろいろな作物に取り組む人が出てくるなど、農作物栽培に更に興味を持つ人が出てきた。

9 今後の課題・問題点等

- ご夫妻共に本業の傍らの農園運営であり、平日は農園管理や利用者対応に手が回らないこともある。
- 帯迫農園は、過去に飼料畑として利用していた農地を再生して市民農園として整備したものだが、牧草の種子が土壌の中に多少残留している。

農園整備時の土壌改良の中で対策はされているが、牧草対策が現在でも欠かせない。



【問い合わせ先】

鹿児島市役所産業局農政総務課企画係 電話 099-216-1334